榧（かや）ノ木

第拾壱号

平成27年10月10日発行

青壮年部女性部広報

題字：大内翠峰

副住職就任
～故郷と共に～

就任挨拶

どうぞよろしくお願いします

禅興寺　副住職　梅澤　竜潭（りょうたん）

季節も一段と秋の深まりを見せ、七ツ森も鮮やかに色付いてまいりました昨今、檀信徒の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか？

初めてこの榧ノ木に寄稿させていただきます。

此度九月十五日付けにて、禅興寺副住職を仰せつかりました梅澤竜潭と申します。

この春、京都花園大本山妙心寺内にあります妙心寺専門道場を下山（げざん）いたしまして、生まれ育った故郷の吉田に帰ってまいりました。

十数年振りにこの地で腰を据えて生活していますと、様々なことが懐かしく、又新鮮でもあり、改めて故郷の有り難さに気付かされます。

そうした中で今回禅興寺の副住職に就任させていただいたことを大変うれしく、又、誇りに感じております。

祖父である先住職、父の住職はもちろんの事、歴代の総代様を始め、沢山の地元の人々のおかげで、今日までこの禅興寺が守られてきたことを、私は幼少の頃よりこの目で見て参りました。

私自身が今こうして副住職になることが出来たのも、そんな皆様のおかげに他ならないと感謝しております。

私のような未熟者で、果たしてこの大役が務まるか不安ではありますが、皆様への感謝の念を忘れず、御一人御一人の思いに応えられる様、少しでもこの吉田に恩返しができる様、日々精進してまいります。

見かけましたら、お気軽に一声かけていただければ、何よりの励みになると思います。

一所懸命努力いたしますので、皆様何卒宜しくお願い申し上げます。

水子地蔵世話人会・花園会女性部合同研修会

東日本大震災被災地慰霊の旅に参加して

浅野　澄江

本年七月五日、四年半前の東日本大震災の津波被災地を訪問、慰霊する日帰り合同部研修に総勢三十二名で参加致しました。

訪問先は、南三陸町の防災対策庁舎跡と曹洞宗安養山西光寺そして石巻市大川小学校跡地でした。

禪興寺を出発し、最初に防災対策庁舎に到着。

周りは、着々と復興工事が進み、高くかさ上げされ、整地されていました。

何ひとつない現場、そして鉄筋の骨組みだけ形に残った建物を見た瞬間、すさまじい津波を想像しながら、ご焼香。全員が輪袈裟、数珠で威儀を正して犠牲者の冥福を祈り、般若心経を唱えました。

訪問した西光寺様は、津波で本堂が浮き上がり、目の前で渦巻いて流され、現在はアメリカの寄附財団より寄進された木造プレハブの仮本堂で復興中です。

西光寺住職の切々と語る言葉が心に響きました

御住職は当時の現状を振り返り、とにかく高台に逃げる事を考え、避難する為の急な坂の入り口にあった車止めのポールを必死になって抜いたことや、本堂に津波が襲ってきた時の様子を当時の写真を指差しながら説明されました。

一瞬の出来事に対する行動が、命取りになることを知らされました。

最後に八十人余りの生徒や先生が津波の犠牲になった大川小学校の慰霊碑前で、お経を読みました。

この付近も震災前は、家々が立ち並んで居たとの事ですが、今は何もありません。

津波がすべてを飲み込み、流され、子供達はもちろん、住民の人達も犠牲になり、さぞ苦しく、さぞ怖かったでしょう。そう思うだけで胸が締め付けられて涙がこぼれました。

無残な校舎の姿を見て、改めて津波の恐怖を知るとともに、亡くなった方々のご冥福を心から祈りました。

今回の教訓を心に刻み、災害時の教えを今後、次世代に伝えていこうと思いました。

いざというときの避難訓練の必要性を感じ、二度とこんな不幸な経験はしたくないと願う毎日です。

慰霊の後、追分温泉で昼食・休憩をとり、寛いだ後、道の駅「上品の郷（じょうほん）」で、少しでも地元の復興に役立てばと願いつつ、地場産品を買い物して帰宅しました。

復興進む南三陸町防災対策庁舎前にて読経

震災のリアルな体験談に思わず引き込まれ

お釈迦様の誕生日

子育て水子地蔵祭り、降誕会に参加して

佐藤　彰

五月十九日にお釈迦様のお誕生をお祝いする「花まつり（降誕会）」と子育て水子地蔵祭りが併修されました。

お釈迦様は約二千五百年前の四月八日に現ネパールのルンビニー園でお生まれになりました。生まれてすぐに前後左右に各七歩歩まれ、天地を指さして「天上天下、唯我独尊」（てんじょうてんげゆいがどくそん）と唱えられたそうです。

この七歩とは、六道（地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天）という迷いの世界を離れて仏道の修行により、お悟りを開くことを指しています。

発足して三年目になります禪興寺御詠歌支部の皆さんによる心静まる調べを聴かせていただきました。

当日は雨天のため、水子地蔵祭りのお勤めは本堂内で行い、絵馬は後日改めての奉納となりました。

東日本大震災で亡くなられた方々のご供養が終わり、大本山妙心寺派布教師である岐阜市珠泉院住職　松久宗心師より「おかげさま～社会の恩～生かされ・支えられ」と題してご法話をいただきました。

「お互いに支えあって生きることの大切さ」を、ユーモアを含めて、和やかな雰囲気でお示しいただきました。

心の中が甘露の雨で潤ったような一日を過ごさせていただきました。

合掌

御詠歌の響きが心に沁みます

本堂に響き渡る祈りの声

大本山妙心寺布教師様の御法話

仏事（葬儀・法事・火葬・通夜・行事）の際は、忘れずに輪袈裟と数珠を身に着けましょう。

寄稿

盂蘭盆施餓鬼会に出席して

峯　碓井　忠郎

立秋を過ぎた去る八月十一日禪興寺本堂に於いて施餓鬼会が行われました。

昨年に、引き続き新亡の家族として出席をさせていただきました。

相変わらずの暑さに吹き出る汗を拭いながら、五十人程の出席者と開式を待ちました。

やがて太鼓の響きに合わせ、本堂に十四名の和尚様が入堂され、読経が始まると蝉の声も打ち消される如くでした。

一呼吸の間も置かず、長く続いた読経の響きは誠に荘厳で、最も丁寧なお盆の先祖供養と言われるだけあって厳粛な中に式の重厚さを痛感致しました。

申し込まれた先祖供養の施主名や戒名の塔婆が、導師である住職によって読み上げられる頃には、いつの間にか汗がすっかり引いておりました。

どのご家庭でも、一緒に暮らした亡き家族の事は時折話の中に出てくると思います。

私の母は、この春一周忌を過ぎたばかりで、我が家でも生前母がよく話していたことや行っていたことが話題になり、思い出は未だ身近に有ります。

故人の安らかな成仏を願う気持ちは新亡であれば、少しでも供養の上積みをしたいと願い、自分も何となく気持ちがほっとするので、今回も重ねて出席をさせていただきました。

式終了後の徹玄和尚様のお話も、心を打つものでした。

地獄絵図を前に法話される住職

お釈迦様の十大弟子のひとりである目連尊者、他界された母上が、死後の世界でどう過ごしているのかを心配し、餓鬼世界で苦しむ母を必死に助けようとされたという法話は、現世に生きる私たちの生き方を説くものでありました。

私の母は晩年「自分が居なくなったらこの家はどうなるのか」と云っておりました。

甲斐性の無い息子なものですから、心配するのも当たり前かな、と当時は聞き流しておりました。

今年は、お盆が来るのは二回目なので、今の我が家のありようをどう見て帰るのか、一度聞いてみたいものだと思いつつ、家に帰ってから仏壇に線香を上げてみました。

水もしたたる受付嬢？団扇の風も「おかげさま」

行道（読経しながら時計回りに廻る御和尚様方）

『七ツ森樹木葬』始まる

ＮＨＫと大崎タイムスによる取材がありました。～満開のやまぼうしを背景に～

禪興寺　住職　梅澤　徹玄

当山は本年四月より境内に隣接する雑木林（約千五百坪）を墓域として「七ツ森樹木葬」を開設致しました。

従来の家単位の石造りの墓の概念とは大きく異なる、個人単位の「自然葬」の一種です。

樹木葬は今から十六年前の千九百九十九年、岩手県一関市にある臨済宗妙心寺派の祥雲寺（現在は独立して「知勝院」）様が初めて提唱され、その後様々な形態に展開して、全国、世界各地に広まっているものです。

当山でも何度か総代会青壮年部の現地研修旅行を実施し、千坂嵯峰和尚様に直接御講義、現地御案内をいただき、此度、漸く開設に至りました。

この半年間全国各地より大きな反響を頂き、様々な媒体を通じて興味関心をお持ちになった方々が、資料請求現地見学、生前契約、埋葬をされています。

地域も様々で、宮城県内は北から美里町、大崎市、富谷町、仙台市、塩釜市他、県南は柴田町、亘理町、遠くは北海道、山形県、福島県、栃木県、東京都、埼玉県、長野県、最南端は鹿児島まで全国各地にわたっています。

年代も団塊の世代を中心に三十代から九十代の方々まで、職業は、元会社員、主婦、農家、自営、放送局のプロデューサー、大学教授等々、多岐にわたっています。

少子高齢化の中で、次世代に墓を維持する負担を掛けたくない、墓の継承者がいない、死後は大地に還って自然の中で眠りたい等々、少子高齢化の時代の中で新しいお墓のあり方として多くの方々の共感を呼んでいます。

又、ＮＨＫの県内版、全国ニュースでも取り上げられ、多くの方々の目に留まったようです。

更に「樹木葬」を世界的な視野で研究されている札幌市立大学の学者の方も、日本唯一の「ドイツ方式の樹木葬スタイル」として、視察研究の為、来山されました。

まだまだ、始まったばかりの「七ツ森樹木葬」ですが、今後共ぜひ宜しくお願い申し上げます。

合掌

ホームページリニューアル

新しい情報をチェックしてみてください！

禪興寺のホームページがリニューアルされました。（アドレスが変わりました。）

現在は「七ツ森樹木葬」の紹介ページを中心に情報発信しています。

今後、青壮年部・女性部の活動や、お寺の最新情報がアップされる予定です。一度アクセスしてみてください。樹木葬の紹介動画も御覧になれます。

http://zenkoji-jyumokusou.com

今年も善意の八女茶届く！

東日本大震災発生の年から連続して5年間、毎年必ず福岡県八女市より大きな段ボール箱に何箱も箱詰めされた極上の煎茶が当山に届けられます。

妙心寺派の霊巌寺（れいがんじ）さまの檀家であるお茶栽培農業法人「茶ノ実庵（ちゃのみあん）」から、震災の被害を受けた方々への復興支援物資です。

当山で仕分けの上、岩手、宮城、福島沿岸部の十二ケ寺院を通じ、津波、原発被災者の方々へ届けられ、大変喜ばれています。

この八女地方は、震災翌年の集中豪雨により、大切な先祖伝来の段々茶畑が土砂崩れの為、甚大な被害を受け、現在復興に励んでおられる最中です。

今年九月、住職が再度表敬訪問し、感謝を伝えました。

届けられた善意の八女茶

茶ノ実庵代表の方々、霊巌寺御住職様と

今後の行事予定

◎十二月五日（土）
成道会・大般若祈祷
忘年会

◎平成二十八年
二月十三日（土）
涅槃会・写経会（予定）

編集後記

穏やかな生活を送るために準備をしておくことは？

生きている間は『明るく、楽しく過ごしたい』と思っていました。

しかし、猛暑で自分自身の健康を崩して大変な思いをしましたが十一号は、読んだ人が元気になるような記事が満載です。

又、広報部では「榧ノ木」のお手伝いをしてくれる部員を募集中です。

広報部
部　長　鶉橋初雄
副部長　小川弘吉
部　員　佐藤　彰　早坂妙子
浅野澄江　相澤敏晴

発行
禪興寺花園会青壮年部・女性部　広報部
〒九八一-三六二五
宮城県黒川郡大和町吉田字長福寺一
電話番号　〇二二-三四五-二〇六三